

ジャパンオープン帯同記

～トビウオジャパン最終選考会～

2014.6.19-22

帯同者：野中 岳（チーフトレーナー）
平石 大樹（理学療法士）

今回、競泳松田丈志選手のトレーナーとして、『ジャパンオープン 2014』へ帯同する機会を頂いたため、活動内容を報告する。

大会会場

辰巳国際水泳場（東京）

大会趣旨

国際大会に向けた“代表最終選考会”

- パンパシフィック水泳選手権
- アジア選手権



先に行われた日本選手権の結果が優先され、現状として松田選手は 800m フリー（自由形）リレーでの代表が決定している。

今回、200m 自由形、100m および 200m バタフライ競技での代表出場枠を獲得すべく本大会に臨んだ。

※代表への条件

本大会で派遣標準記録を上回ると同時に種目優勝を果たす。

【本帯同中の活動内容】

- ① 試合前後のコンディショニングサポート
- ② 動画撮影(本人評価用)

200m 自由形

派遣標準記録：1:51.46

結果

予選タイム：1:49.04 → 決勝へ

決勝タイム：1:47.73 (優勝)



200m バタフライ

派遣標準記録：2:01.08

結果

予選タイム：1:57.63(5位) → 決勝へ

決勝タイム：1:57.31(4位)

100m バタフライ

派遣標準記録：54.46

結果

予選タイム：53.54(12位) → B決勝へ(11~20位)

決勝タイム：53.94(17位)

特異書目とするバタフライでは、残念ながら満足のいく結果には至りませんでしたが、松田選手自身奮闘した様です。応援にも熱がこもりました。声を張り上げ応援しました。

大舞台で自らを鼓舞し戦う松田選手の姿に心打たれ、感極まりました。

今年、来年とモチベーションを保って頑張っていくと言葉を残されました。

そんな松田選手にもっとサポートできる事はあったのでは？と思い返します。

頂いたチャンスをしっかりものに出来る様、準備をしっかり行おうと、再度思い直しました。

ここからは本大会を通じて学んだことなどを各々が感想という形で述べたいと思います。

(平石)

これまで何度か松田選手のトレーナーとして帯同させて頂きましたが、全国規模の大きな大会は今回が初めてです。これまでも多くの事を学ばせて頂きましたが、今回はまた違った視点から学んだこともありました。

専任トレーナーの存在により、技術的なものだけでなく、トレーナーとしての過ごし方、選手との関わり方など、とても勉強になりました。また、併せて自身の課題を改めて見つめ直す事が出来ました。

そして、やはりこの分野で仕事する事の難しさや楽しさといった、充実感を得る事ができました。

目指すべき方向性は確立しつつありますが、やはり大きな国際大会に帯同したい、オリンピック、ワールドカップといった日本中が熱狂するような大きなもの。今の自分を見つめ直した上で考えてみると、やはり焦りの気持ちはありません。ただ、準備すべき事もたくさん学びました。

今回の経験を活かし、一日を大切にしながら成長して行ければと思います。

それから、本大会を通じて感じた事は、自身の持てる力を充分発揮することの難しさです。松田選手もこれまでにしっかりと準備を行ってきたようで、コンディションも悪くはありませんでした。ただその中で、力を出し切れなかった事、そこに悔しさを感じている様でした。我々もそういった面では共通する部分があると思います。チャンスが訪れたとき、苦しい場面に遭遇したときに真価が問われると思います。そこで十分に力を発揮できる程に、知識や技術の向上へ努める必要があると痛感しました。

今回の経験を活かし、ステップアップしていけたらと思います。

(野中)

松田選手へのトレーナー帯同として今回初めて全国規模の大きな大会に帯同させて頂きました。

今回の帯同では、以前から松田選手に帯同してあるトレーナーの方がメインとしてコンディショニングを行われていた為、松田選手へ直接触れる時間は短かったものの、その短時間でも選手を満足させる技術の必要性を感じました。

また、今回松田選手へのコンディショニングでは、クリニック以外のトレーナーの方が、そして普段からコンディショニングを行っているトレーナーの方が松田選手へコンディショニングを行っているのを見せて頂いて、多くの改善点はもちろん、自分にも通用する技術の存在に気付く事が出来ました。今後は、改善点に対して自分のスキルへと習得できるよう努力し、通用する点に関して

も、必要な場面で誰に対しても最大限の能力をいつでも発揮出来るように何度も何度も取り組み、そのスキルを磨いていきたいと思います。

今回の帯同から、また多くの刺激を受けさせて頂きました。どんな過酷なトレーニングをしても何度練習を繰り返しても必ず勝てるとは限らない。しかし、何事にも挑まなければ、結果が生まれる事は無い。なぜか今回の帯同で強くそう感じました。

今後また一段とステップアップ出来るように、そして外へフィードバック出来るように日々の業務へ取り組んでいきたいと思います。

最後になりましたが、

今回このような機会を与えて頂いた院長にまず感謝致します。

また、帯同させて頂きました、松田選手や久世コーチ、お世話になりました関係者の方々、併せて不在中ご迷惑をおかけ致しました当院スタッフの方々にも深く感謝申し上げます。

ありがとうございました。



頑張れ！！

松田選手！！